

予報期間 8月8日から8月14日まで

◆今期間のポイント

＜主要じょう乱の概要＞

- 台風第13号と台風第15号については最新の台風予報を参照。
- 10日は、高気圧が沿海州付近に停滞する。
- 11日から14日にかけて、高気圧が日本のはるか東から千島の東に移動する。日本の南から小笠原諸島付近は低圧部となる。

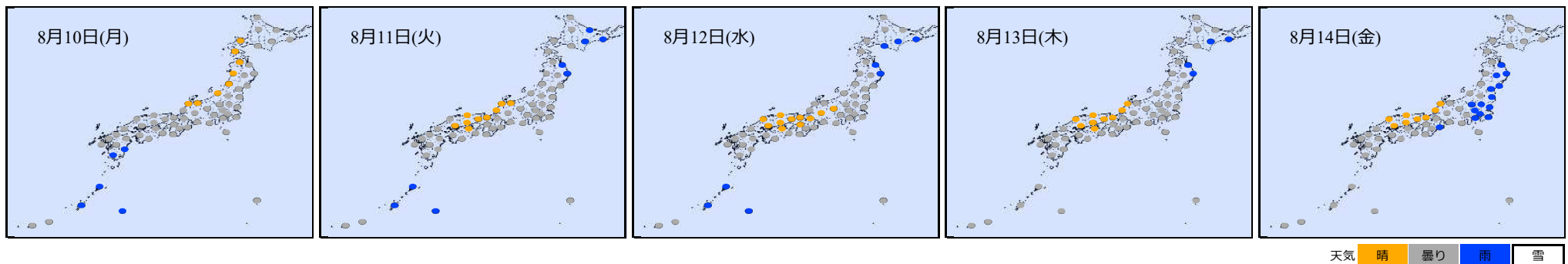
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 沖縄・奄美では、10日にかけて台風第13号の進路等によっては、大しけとなるおそれがある。
- 北日本では、10日から11日頃にかけて台風第15号の進路等によっては、警報級の高潮となるおそれがある。
- 西日本では、気温が平年よりかなり高くなり、最高気温が35度以上となる所がある。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

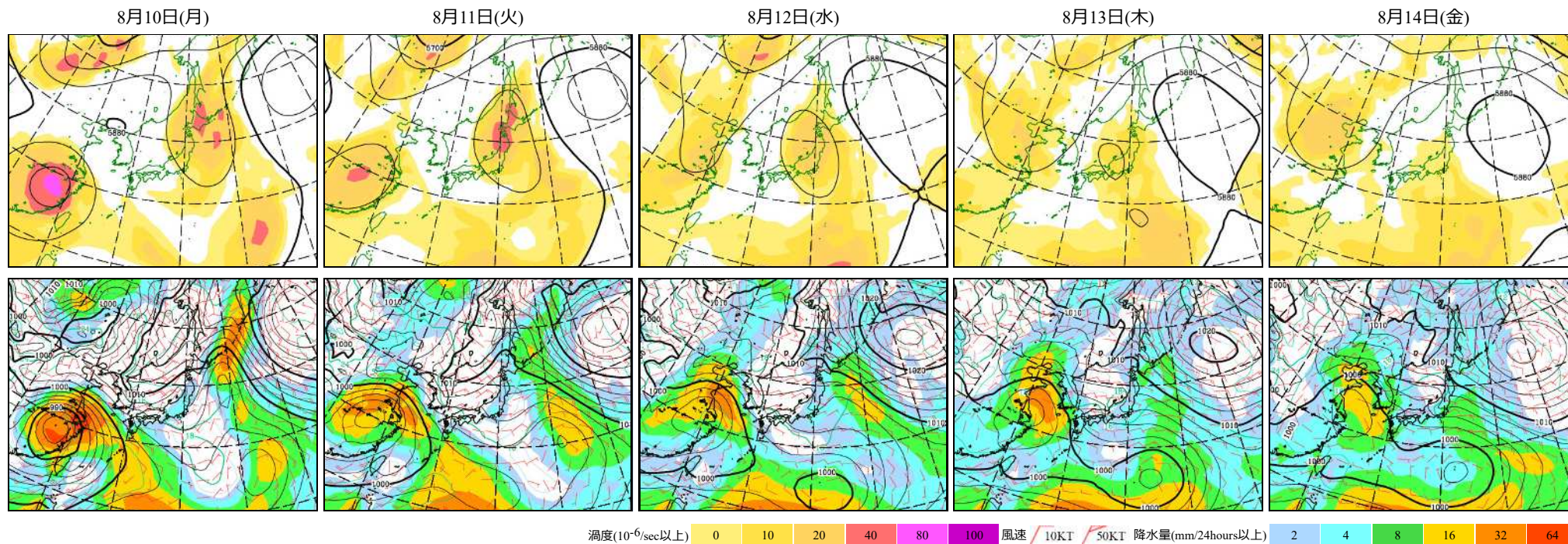
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

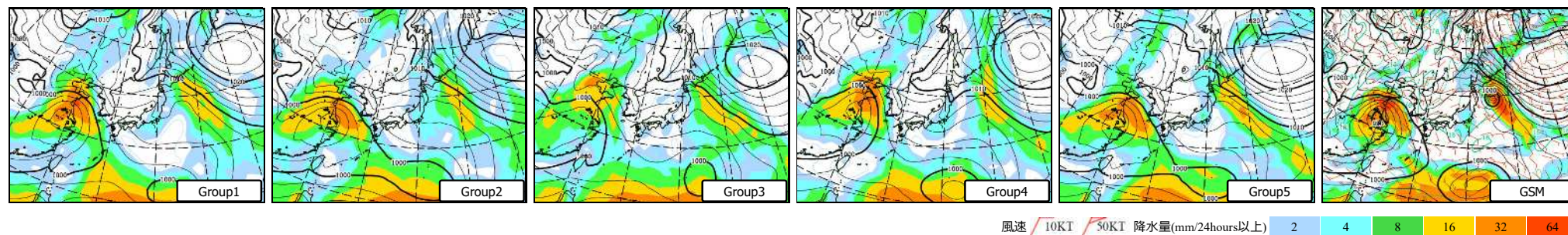


- 北日本では、曇りや雨の降る日が多いが、10日は晴れる所がある。
- 東日本は、曇りまたは晴れる日が多いが、14日は雨の降る所がある。
- 西日本は、曇りまたは晴れる日が多いが、10日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆8月12日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、11日から13日は北日本付近が気圧の谷となりやすい傾向となった。このため、北海道太平洋側を中心に降水確率ガイダンスの値が大きくなった。
- モデル間の差は、期間の終わりは本州付近のカット・オフしたトラフの位置等にバラつきが見られる。
- スプレッドは期間の中頃から大きく、特定高度線のばらつきも大きくなる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。